



R7.3.10

令和6年度 朝日中学校 学校だより

朝のっこ

鶴岡市立朝日中学校

TEL:53-2092

Fax:53-2091

Mail⇒



祝 2025 雫石ユースアルペンスキー大会

K2 男子 SL 競技 第2位 遠藤さん

K2 男子 SL 競技 第3位 渋谷さん

「きまりの見直し」を行いました 3 / 4 臨時生徒総会



3月4日、これまで延期されていた「きまりの見直し」に関する臨時生徒総会が開催され、執行部案が承認されました。

本来であれば、12月に行う予定が、インフルエンザ等の感染状況を踏まえ延期となって年を越し、この後3年生の受験対応等により、今回の協議となりました。3年生の執行部の皆さんには、長期間にわたってご迷惑をおかけしてすみませんでした。

期間が開いてしまったので、もう一度、「きまりの見直し」の意義などを再確認させていただきた

いと思います。

臨時総会の冒頭、執行部から以下のような説明がありました。

【「きまりの見直し」に取り組む理由】

時代や社会状況が変化する中であっても、「校則」「私たちの約束」が変わらない状況があったこと、他校でも見直しが進んでいる状況があったから

【「きまりの見直し」に込めた願い】

いろんな人の声に耳を傾け、より広い視点に立った「きまりの見直し」を進めることで、みんな（できるだけ多くの人）が納得して生活できるように。

【「きまりの見直し」を進めるうえで大切にしたいこと】

- ・よりわかりやすいものにして生徒が日常的に意識できるようにしたい。
- ・必要なものはルールとしてしっかり残し、みんなが安心して学習や行事をはじめとする学校生活を安心して取り組めるようにしたい。

総会の終わりに、秋山から皆さんに2つ、確認させていただきました。

①改正したきまりの施行は、改めてアナウンスされる

⇒それまでは、改正前のきまりに沿って生活する

②「自分自身で判断する」とは、自分に都合のいいように解釈するのではない、ということ

特に②について、あの場では別の言い方をしましたが、僕の言いたかったのは、そういうことです。

たった一人で生活する分にはきまりは必要ありません。集団で生活するから、誰かが不利益を被ったり、嫌な思いをしたりすることがないようにするため、その集団の全ての人々が安全に、そして可能な限り快適に生活するためにきまりが必要なのです。だから「自分自身で判断する」ということは、「今の自分にとっていいか／悪いか」「したいか／したくないか」ではなく、「周りの誰かににとっていいか／悪いか」「先のことを考えたとき、どうなのか」を自分で考える、ということです。あくまでも自分に都合がいいように、ではなく、「周りの人」がどう思うか、どう感じるか、だと思えます。

2523⇒2520

東日本大震災での行方不明者数が去年は 2520 人と発表されています。その前年は 2523 人だったので、この 1 年間で 3 名の方の身元が判明しています。こういったニュースを見聞きすると、たぶん、君たちの記憶にはないだろうけれど、あの震災は過去のことではない、と思わされます。

僕自身、それまでを振り返り、これからの生き方について考えたことが 4 回ありました。14 年前の 2011 年 3 月 11 日がその 4 回目にあたります。



あの日の 1 年後、子どもを連れて宮城県名取市の閑上地区に行きました。

既にがれきのほとんどは海辺の方に片付けてありました。住宅地だったところはコンクリートの基礎だけが残し、地平線の向こうに山が、反対側には穏やかな水平線を見ることができました。あの日以前はきっと君達と同じくらいの子達が住む家が建ち並び、君達と同じようにあの中学校に通っていたのかと思うと、本当にこの地に来てよかったのかと思いました。何万人という犠牲者を出した地に足を踏み入れることが申し訳ないようで、今でもそれが正しかったのか分かりません。でも、子ども達にやっぱり人ごとじゃないんだってことを伝えたかったし、自分が生きている意味を考えてほしかったし、生きている喜びを感じてほしかった。今こうして勉強したり、友達と遊んだり、あるいは卒業の時を迎えることが出来る喜びを考えてほしかった。

ある日見たTVで、閑上中学校に通う我が子を震災で亡くしたお父さんが、「(卒業式の)この場になぜ自分の子がいないんだと考える自分が恥ずかしい」と言っていました。もし僕があのお父さんと同じ立場だったら、そんなことはきつと言えない。今でもそう思います。

震災から数日たち、悲惨な状況が報道されたまさにその場所は、その数年前に顧問をしていた部活動の遠征で何度も行った、見覚えのある場所でした。当たり前のことが一瞬で消えてしまう現実を目の当たりにした僕は、こうしていいんだろうか、と思わずにはいられませんでした。

自分の好むと好まざるとに関わらず、毎日を精一杯、とりあえず目の前にあることに精一杯取り組んで、生きていかなきゃダメなんじゃないか。

自分のことだけでなく、もっと周りの人の気持ちを考えて生きていかなきゃいけないんじゃないか。

まだ精一杯じゃない。もっとできる、もっともっと頑張れる。

手を抜いちゃダメだ。自分を甘やかしちゃダメだ。低きに流されちゃダメだ。

何度考えても僕に出来ることはやっぱりそれぐらいしか思い浮かべることが出来ません。

そうした決意も月日が経つとやっぱり薄れてしまいます。そんな自分にがっかりもしますが、もともとそんなに“たいした”自分でもないの、また今日から、と決意を新たに 3 月 11 日の朝を迎えたいと思っています。